

広島自治労連第36回定期大会開催!



10月19日(日)ロードビルにてオンライン併用開催

2026年度 大会スローガン

憲法 地方自治をいかし、人権が尊重される平和な社会を
仲間を増やし働きがいと 魅力ある職場をつくり、公共を取りもどそう

10月19日(日)ロードビル3階会議室で広島自治労連第36回定期大会を開催しました。

最初に来年実施の第18回地方自治研究集会in広島の研究集会イメージキャラクターとニュースタイルの最優秀賞と特別賞受賞者への記念品授与からスタート。
経過報告では浜崎書記長より、広島で開催された3つの全国大会の成功。戦後、被爆80年としてリレー旗を掲げての平和行進。そして現在全国自治研究集会の成功に向けた取り組みを報告。
中石執行委員長による運動方針提案では、世界各地で続く戦争の廃絶。憲法、平和を守るための取り組みや組織拡大。そして全国自治研の成功を重要課題として提案。秋学期末闘争方針でその実現に向けた運動参加等の呼びかけを行いました。
討論では10本の発言。全ての提案、大会宣言と共に「核兵器のない、平和な世界の実現を目指す」アピールを採択。平和、公務公共を取り戻し、増勢を皆が目指す大きな一歩となる大会となりました。

討論では様々な発言が

■広島市職労

平田県本部執行委員



保育園調理員実技講習会で調理員と保育士が集まり、調理、試食。調理の工夫やテクニクを伝えたり、職場の悩みや大変さを語り合い、次も参加したい、年に複数回開催してほしいと感想があつた。会計年度任用職員2名加入、引き続きがんばりたい。認定こども園化について組合と事前協議を行うことを再三申し入れたが、可部南認定こども園の設置、保育内容について議会説明後に、組合専従のみに説明。その場で当局に抗議、その後、緊急抗議で増員要求。

■広島介護労

酒井代議員

昨年の介護報酬改定でホームヘルパー



■女性部

橋本代議員



自治体・公共職場にはたらく女性の学習会で京都府の加害と被害についてフィードバックをした。座学では原爆被害について国の責任や非人道的な核兵器を廃絶することの重要性を学んだ。はたらく女性の広島県集会で、原爆に付

自治研イメージキャラクター&ニュースタイトル 最優秀賞・特別賞おめでとう!

第18回地方自治研究全国集会in広島のニュースタイトル&イメージキャラクターの最優秀賞・特別賞受賞者へ記念品授与が行われました。

イメージキャラクター



最優秀賞「もみじっちゃん」
児童館労組 垣下りささん

特別賞「もみじちけんたろう」
広島市ひと・まち労組 廣目千恵美さん

ニュースタイトル

最優秀賞
「LET'S GO ひろしま自治研」
県本部 小川未来さん

特別賞「まなびん」
広島市ひと・まち労組 中村花央里さん

ている名前が「リトルボーイ」「フィットマン」という男性名であることは、男性は力強くないければならないことを意味し、それは力で平和をつくるトラップ大統領と一緒に考え方を学んだ。日本はアメリカに追随するのはなく外交を大事にすべきだ。

■広島市児童館労組
加山代議員



児童館労組の組織率は82.5%、新規採用者や未加入の方に声掛けし1名加入。引き続き、共済加入も呼びかけている。一部の館長で採

用年月が同じ場合で、会計年度任用職員制度導入前と後では、導入後の館長のほうが賃金が高いこと、賃金が高いこと、主任が賃金が高いこと、主任から館長に昇格した時に主任の方が賃金が高いことが判明。組合が粘り強く要求し1月に改定。秋の交渉でも賃上げ、駐車場確保、駐車場代もんだ、育休制度見直し、男女別トイレ設置等ががんばりたい。

■広島市留守家庭
子ども会労組
森貞代議員



若年層の大幅賃金

増や勤勉手当支給等で新規採用者数が増え、途中退職者も減ったが、65歳以上の再雇用の方に支えられている。施設の問題では、定員以上を受け入れざるを得ない、代休日・閉庁日に教室使用不可、ロッカーや机がない等、子どもたちはいつもと違う環境に戸惑いを隠せない。子どもたちの健全で快適な居場所づくりのために組織拡大に努めたい。新規採用者への声かけへ「増やす人を増やす」活動で、組合の存在意義が広く知ってもらえる機会になった。



■ 非正規連絡会ヒロシマ
加藤代議員



9月27日に学習総決起集会開催、43名参加。「組合を知らう」をテーマに、組合の「見える化」を目指し、各単組の現状、成果を報告後、グループトークを行った。秋の賃金交渉に向けて労組への理解を深め、意思統一できた。10月17日、第1回の賃金統一交渉、56名参加。重点要求と2412筆の団結署名提出。4号昇給、昇級上限撤廃、常勤職員並みの各種手当、退職金支給等を要求、職場の現状、ベテラン職員の何ものにも代え難い経験、スキルを軽視しないことを訴えた。

し、障害を持つ職員からは仕事、人間関係、職場での無理解等でストレスを抱え、要求アンケートを行うと70名から回答が届いた。組合として要求書作成、交渉したがまだ改善されていない。今は生の声の交流で、「自分だけが苦しんでいることではない」と気づき、組合加入もあつた。困っていることを安心して話ができる場所こそ組合であり、運動前進の力にしたい。

■ 広島市職労
柴野代議員



事務所衛生基準規則が示す基準を満たすため、広島市役所本庁舎の女性トイレについて本庁の衛生委員会での議題に。現在本庁の女性職員は12290人で全職員の33%、女性トイレの前に並ばれていること、女性活躍推進プランの観点から増設が衛生委員会に取り上げられ、また、市民から臭気の問題で苦情がある等、昨年改修工事が始まり、女性トイレ

■ 広島市職労
塩見代議員



広島市は、広島市障害者である職員活躍推進プランを策定、法定雇用率を達成、外からは良い状況とみえる。しか

は38器から60器で個室洋式化。その他、多目的トイレの充実や16階には個別の休憩室が設けられ、時間外のミーティングも可など環境整備が行われる。



■ 広島市関連連絡会
林代議員

統一交渉の窓口は広島市都市整備公社が担っていたが、組合解消に伴い、窓口を降ろす意向を表明。次の窓口が決まるよう都市整備公社や各財団に要請し続け、6月末、夏の統一交渉が実施できた。7月8月の対市交渉の場では、広島市に公の施設に対する責任を問い、人件費や運営費の増額を要求。スポーツ協会での指定替えに伴う臨時職員雇止め、動物園の熊出沒対策の不足、公民館や図書館の運営費と人材不足を訴えたが、分権課長は、限りある予算の中で優先順位をつける、と回答され、組合は市議会への働きかけを検討している。

■ 市労組みよし
大谷代議員



国の人勧準拠に基づき改定があるが、物価高騰に追いつかず、自家用車保有が必須の自分たちにはガソリン価格も懸念。職員のほとんどが車通勤、手当が足りず持ち出ししているのが実態。また、高速料金について、採用当時から広島市から通勤している職員には高速料金が支給されるが、採用後に結婚を理由に広島市から通勤することになった職員は該当しない。

親の介護等を理由とした転居なら支給される。地域には地域の課題があることを理解してほしい。

■ 2025ひろしま自治体学校 ■

- ・12/14（日）13：30～16：30終了予定
- ・広島県健康福祉センター
- ・記念講演「軍事大国化のなかで人間らしい地域づくりと『公共』の再構築をめざす」
- ・講師：岡田知弘さん（京都大学名誉教授）
- ・特別講演「広島県のコメ作りを担い手問題から考える」講師：細野賢治さん（広島大学大学院教授）
- ・組合員の参加費は県本部が負担します。

● 広島自治労連女性部第32回定期大会 ●

- ・12/21（日）10：00～12：00
- ・ロードビルからオンライン併用開催
- ・内容
 - 10：00～10：40 落語 秋風亭小まゆさん
 - 10：40～12：00 第32回定期大会
- ・性別問わず、どなたでも参加できます。

第18回地方自治研究全国集会in広島・合同会議
◆集会の分科会運営委員を中心とした初会合◆
＊11月29日（土）13：30～17：00、アステールプラザ
＊集会では15分科会・1講座・2つの現地分科会を予定

第18回地方自治研究全国集会in広島プレプレ企画 「もっと聞きたい！仲間の仕事」 市民のための仕事は公務であるべき！

10月19日（日）広島自治労連第36回定期大会（一面掲載）の午前中、来年10月に広島市で開催される「第18回地方自治研究全国集会」のプレプレ企画「もっと聞きたい！仲間の仕事」をテーマで学習会を行い、2名の組合員から仕事についてお話をいただきました。

「もっと聞きたい！仲間の仕事」をテーマで学習会を行い、2名の組合員から仕事についてお話をいただきました。昨年7月から開催した「連続学習会」が好評だったことを受けての開催でもあります。

お二人目は広島市職労の上村桃香さんが広島市児童相談所の仕事について話しました。

命に関わる仕事だからこそ、職員が安心して働ける体制の充実が必要です。子どもたち一人ひとりの未来を大切に、日々向き合っています。



広島市職労
上村桃香さん

被害防止には早めの相談と正しい知識が重要だと指摘されました。一方で、相

虐待通告だけでなく、18歳未満の子どもの相談を受けることも

めにある仕事であり、公務であることの必要性を感じられるものでした。



広島市会計労組
森山敏美さん

談員の高齢化・人材不足が深刻化しており、専門性を持つ相談員が安心して働き続けられる処遇と、カスハラ対策の充実が今後の課題であると訴えられました。

す。発達や家庭の悩み、非行など内容は多岐にわたり、保育士や心理士、社会福祉職などが連携して支援を行います。

相談は24時間対応で、子どもの安全と家庭の再出発を支えています。

2025秋闘 市民のいのち、暮らしに関わる仕事 仕事に見合う賃金！物価高騰をふまえた賃上げ！



11/4（火）7：45から非正規ヒロシマは市役所前早朝宣伝を行い、広島市職労、留守家庭労組、児童館労組、会計労組、県本部から38人参加。横断幕「昇給4号！上限なくせ！！」の他、過去に作成した横断幕も掲示し、市役所正面入口前、市役所東側入口前、中区役所前で宣伝を行い、チラシ1100枚を配布しました。当日は10時から第2回交渉にのぞみ、現場の実態を訴え、待遇改善の必要性を訴えました。

広島市関連連絡会



中村議長、横田副議長

の高騰による指定管理料の不足、それに伴い施設修繕が不十分なこと、特に専門職・非正規職員枠での人員不足、同一労働同一賃金の実現について、指定管理期間中でも予算の追加配分やリスク分担の見直し、賃金労働条件の見直しを、関連団体とし

て市に求めることを訴えました。賃金改定では、全職員に市の改定と同様の改定実現、市職員と差が出ない昇格の実現、その予算を確保することを念押ししました。

理事者からは、要求書を受け、市の状況を確認しつつ、誠実に協議し、11/26に回答交渉を行うことを確認しました。



各財団理事者